

## 令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 書 写

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	東書（東京書籍）	<新しい書写> 101、201、301、401、501、601
取扱内容 〔学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等〕		<ul style="list-style-type: none"> <li>○硬筆については、第1・2学年では、文字を比べて画の長さや方向の違いを確かめたり、画の接し方や交わり方などに気をつけて書いたりする活動を通して、文字を正しく書くことができる内容になっている。第3・4学年では、文字の大きさや字間を確かめたり、行の中心や行間に気をつけたりする活動を通して、配列に注意して書くことができる内容になっている。第5・6学年では、用紙に合った文字の大きさを確かめたり、文字の位置、字間及び行間に気をつけて書いたりする学習活動を通して、目標が達成できるようになっている。</li> <li>○毛筆については、第3・4学年では、1～2字の漢字や平仮名の題材で、点画それぞれの書き方、字形及び穂先の方向などを確かめる活動を通して、点画の種類を理解し筆圧などに注意して書くことができる内容になっている。第5・6学年では、終筆から始筆への動きなど、点画相互、文字相互のつながりを確かめる活動を通して、目標が達成できるようになっている。</li> <li>○硬筆と毛筆の関連については、点画の種類や書き方、部首の組み立て方、点画のつながりや接し方、文字相互のつながりなど、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付けることができる内容となっている。</li> <li>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「できるようになったよ」（第1学年）、「はがきでつたえよう」（第3学年）、「書写展覧会を開こう」（第6学年）において、課題を設定して見通しをもたせて書く活動を行い、これまでの学習をどのように生かしたか友達と話し合うなど、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</li> </ul>
内容の構成・ 排列・ 分量等		<ul style="list-style-type: none"> <li>○内容の構成・排列については、第1・2学年では、平仮名で点画の書き方を確かめた後に片仮名や漢字について点画の長短や方向、接し方や交わり方を取り扱っている。第3学年以上では、毛筆について1字の漢字の筆圧や点画の筆使いについて取り扱い、後に2字の漢字の組み立てや平仮名の筆使いについて取り扱っている。また、目的に応じて筆記用具を選択し、様々な用紙に書いたり、書く速さや字形の整え方を確かめて書いたりする活動について取り扱うなど系統的・発展的に学習できるような構成がされている。</li> <li>○内容の分量については、第1・2学年では硬筆が34～43ページ、総ページが45～49ページで、前回より10～20%の増量となっている。第3～6学年では毛筆が22～27ページ、硬筆が17～20ページ総ページが53～57ページで、前回より8～16%の増量となっている。（判型はAB版）</li> </ul>
使用上の 配慮等		<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決のヒントを与えるキャラクターが登場したり（全学年）、手紙を書く活動（第2学年）や古文を視写する学習（第5学年）など国語の学習との関連を図った教材を掲載したりするなど、児童の学習意欲が高まる構成になっている。</li> <li>○学習過程を分かりやすく図解した「書写の学び方」を掲載したり（第2学年以上）、教材ごとに自己評価のための「振り返って話そう」を設けたり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができる構成になっている。</li> <li>○当該学年の指導事項を児童に分かりやすく説明した「集めて使おう、書写のかぎ」を掲載したり（全学年）、カラーバリアフリーへの配慮やユニバーサルデザインフォントを使用したり（全学年）するなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</li> <li>○3・4・5・6年で硬筆と毛筆の関連を図っている。</li> <li>○6年で発展的な学習内容を取り上げている。</li> <li>○北海道との関連を取り上げている資料の掲載はない。</li> <li>○すべての学年でURL・QRコードが掲載されている。</li> </ul>

## 令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 書 写

番号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観 点	学図 (学校図書)	<みんなと学ぶ 小学校書写> 102、202、302、402、502、602
取 扱 内 容  学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<p>○硬筆については、第1・2学年では画の長さや方向の違い、点画相互の間や交わり方、接し方に気を付けて書いたりする活動を通して文字を正しく書くことができる内容になっている。第3・4学年では画の長短や文字の中心を確かめたり、文字の大きさや文字と文字との間に気を付けて書いたりする活動を通して配列に注意して書くことができる内容になっている。第5・6学年では用紙に対する文字の大きさを確かめたり、用紙の余白に気を付けて書いたりする活動を通して配列を意識して書くことができる内容になっている。</p> <p>○毛筆については、第3・4学年では漢字と平仮名の筆使いの違いや文字の組み立て方を確かめる活動を通して点画の種類を理解させ、第5・6学年では漢字仮名交じりの文言の題材で、点画のつながりと筆順との関連を確かめる活動を通して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書けるようにしている。</p> <p>○硬筆と毛筆の関連については、第3・4学年では点画の方向や間隔、画の長短及び字形の整え方など、第5・6学年では穂先の動き、点画のつながり及び文字の大きさなど、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎が身に付くようにしている。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「文字の形」(第2学年)において漢字の外形を確かめて書く活動を行い、「ひらがな」(第3学年)において始筆や方向に気を付けて書く活動を行い、「字形を整える」(第6学年)において筆順、外形、組み立てに気を付けて書く活動を行い、学習を振り返って考えを広げたり深めたりしている。</p>	
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<p>○内容の構成・排列については、第1・2学年で「曲がり、折れ」などについて確かめた後に片仮名や漢字の形や画の長さ、点画の方向や接し方や交わり方について確かめた後に文章表記について扱っている。第3学年以上では、1字の漢字の始筆、送筆、終筆や点画、筆圧について確かめた後に2字の平仮名を、2字の漢字の字形や文字の組み立て方を確かめた後に平仮名の筆使いを取扱い、穂先の動きと点画のつながりを確かめた後に文字と行の中心や用紙にあった配列について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるように構成されている。</p> <p>○内容の分量については、第1・2学年では硬筆が33～37ページ、総ページ数が47～50ページで、前回より15～22%増えている。第3～6学年では毛筆が16～22ページ、硬筆が14～18ページ、総ページが51～59ページで前回より4～31%増えている。(判型はB5版)</p>	
使 用 上 の 配 慮 等	<p>○全学年で用語の解説をするキャラクターが登場させ(全学年)俳句を視写する学習(第3学年)や文学教材を視写する学習(第5学年)など国語の学習との関連を図り、児童の学習意欲を高めるよう構成されている。</p> <p>○全学年に学習過程を分かりやすく示した「学習の進め方」を掲載したり、文字を書き込んで自己評価を行う「振り返ろう」を設けたりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるよう構成されている。</p> <p>○全学年で巻頭・巻末に学習のめあてや裏表紙に学習内容を一覧で示した「保護者の方へ」を掲載したり、全学年でカラーユニバーサルデザインへの配慮やユニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>	
そ の 他	<p>○学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p> <p>○3・4・5・6年で硬筆と毛筆の関連を図っている。</p> <p>○6年で発展的な学習内容を取り上げている。</p> <p>○4・5・6年に北海道との関連を取り上げている資料がある。</p> <p>○すべての学年でURL・QRコードが掲載されている。</p>	

## 令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 書 写

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	教出（教育出版）	<小学 書写> 103、203、303、403、503、603
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○硬筆については、第1・2学年では文字を比べ、画の方向の違いを確かめたり、画相互の間や画の長さに気を付けて書いたりする活動を通して、文字を正しく書けるようにしている。第3・4学年では文字の大きさや行の中心、書き出しの位置に気を付けて書く活動を通して配列に注意して書けるようにしている。第5・6学年では用紙に合った文字の大きさを確かめたり、行間や余白に気を付けて書いたりする活動を通して配列を意識して書くことができるようになっている構成に特徴がある。</li> <li>○毛筆については、1～2字の漢字や平仮名の題材で、筆の持ち方や筆圧を確認したり、横画や縦画のそれぞれの筆の動きを確かめる活動を通して、筆順と字形に気を付けて整えて書くことができるようになっている。また、文字の大きさや配列、漢字同士の組み立てに気を付けて書いたりする活動を通して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くことができる構成になっていることに特徴がある。</li> <li>○硬筆と毛筆の関連については、毛筆で学んだ筆順に気を付けて字形を整えて硬筆で書く活動や、文字の大きさと配列に気を付けて硬筆で書く活動を取り上げ、硬筆による書写の能力の基礎を身に付けることができる内容になっている。</li> <li>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「レッツ・トライ」において、横書きのノートの書き方やお話の聞き取りメモのとり方、学習内容がわかりやすいノートのまとめ方、文字の大きさと配列に気を付けて書く活動を通して、見通しを持って自分の考えを広げたり深めたりできるようになっていることに特徴がある。</li> </ul>	
内容の構成・ 排列・ 分量等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内容の構成・排列については、1・2学年では平仮名について「曲がり、折れ」など点画や文字の形を確かめた後に片仮名や漢字の画の方向や文字の中心を取扱い、3年生以上では文字の長さや接し方、交わり方を扱った後に文章表記を取り扱っている。また、毛筆については、始筆、送筆、終筆や筆圧を確かめた後に、穂先の動きや点画のつながりと字形、用紙に合った文字の大きさや配列について扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっているところに特徴がある。</li> <li>○内容の分量については、1・2学年では硬筆が28～39ページで、総ページ数は41～49ページで前回より0～9%の増量となっている。3～6学年は毛筆が26～30ページ、硬筆が15～22ページ、また総ページ数は53～61ページで、前回よりも3～8%の増増となっている。（判型はB5判）</li> </ul>	
使用上の 配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の見通しを示したイラストの導入（全学年）や、文字教材を視写する学習（第2学年）、新聞を書く学習（第4学年）など国語の学習との関連を図る学習など、学習意欲を高める構成がなされている。</li> <li>○見通しを持って取り組むことができる「学習の進め方」が掲載されていたり、教材ごとに自己評価を行う記入欄を設けたりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるように構成されている。</li> <li>○巻頭に文字に関連したコラムを掲載したり、色覚等の特性をふまえた判別しやすい色や適度な配色数とレイアウトや、ユニバーサルデザインフォントを使用するなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</li> <li>○3・4・5・6年で硬筆と毛筆の関連を図っている。</li> <li>○1・2・6年で発展的な学習内容を取り上げている。</li> <li>○4年に北海道との関連を取り上げている資料がある。</li> <li>○すべての学年でURL・QRコードが掲載されている。</li> </ul>	

## 令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 書 写

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	光村 (光村図書)	<書写> 104、204、304、404、504、604
取扱内容  学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 硬筆については、第1・2学年では、画の長さや方向の違いを確かめ、画の付き方や交わり方などに気を付けて書く活動を通して、文字を正しく書くことができる内容になっている。第3・4学年では、文字の中心をそろえ、行を整えることを確かめたり、字間に気を付けて書いたりする活動を通して、配列に注意して書くことができる内容になっている。第5・6学年では、用紙に対する文字の大きさを確かめたり、用紙に合わせた字間や余白に気を付けて書いたりする活動を通して、配列を意識して書くことができる構成に特色がある。</li> <li>○ 毛筆については、1～2字の漢字や平仮名の題材で、漢字と平仮名の筆使いの違いや画の方向などの動きを確かめる活動を通して、点画の種類を理解し筆圧などに注意して書くことができる内容になっている。また、漢字仮名交じりの文言の題材では、筆や小筆を使用して点画相互、文字相互のつながりを確かめる活動を通して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くことをねらいとした構成になっていることに特色がある。</li> <li>○ 硬筆と毛筆の関連については、点画の筆使い、字形の整え方及び文字の配列、穂先の動き、点画のつながり及び文字の大きさの配列など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、硬筆による書写の能力の基礎を身に付けることができる内容になっている。</li> <li>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「できているかな」において、筆記具の持ち方に気を付けるなどの課題を設定し、鉛筆の持ち方について良い点を友達と伝え合うなどの他、リーフレットや新聞記事を書いて見やすさについて友達と話し合うなど、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられていることに特色がある。</li> </ul>	
内容の構成・ 排列・ 分量等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の構成・排列については、第1・2学年では平仮名について「曲がり、折れ」など点画や文字の形を確かめた後で片仮名や漢字の点画や文字の形について扱い、3年生以上では1字の漢字の点画や穂先の向き、筆圧との関係を確認した後、2字の平仮名の筆使いについて取り扱っている。また、部分の組み立て方や筆順、字形を確かめた後に、平仮名の筆使いや2字の漢字の大きさについて取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっているところに特色がある。</li> <li>○ 内容の分量については、1・2学年は硬筆が27～34ページで、総ページ数は41～45ページで前回より11～15%の増量となっている。3～6学年は、毛筆が16～23ページ、硬筆が13～19ページ、総ページ数が53～57ページと前回よりも4～17%増量となっている。(判型はB5判)</li> </ul>	
使用上の 配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 分かりやすい図やイラストを掲載したり(全学年)、原稿用紙に書く学習(第2学年)、短歌をつくって書く学習(第6学年)などの国語の学習との関連を図ったりするなど、児童の学習意欲を高めるよう構成されている。</li> <li>○ 教材ごとに学習内容についての自己評価欄を設けたり、3～6学年では学習過程を分かりやすく示した「学習の進め方」を掲載したりするなど、児童が主体的に取り組むことができるよう構成されている。</li> <li>○ 図表などに識別しやすい組み合わせの色やユニバーサルデザインフォントを使用したり、3～6学年では裏表紙に児童自らが繰り返し確認できるような筆記具の持ち方を掲載したりするなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</li> <li>○ 3・4・5・6年で硬筆と毛筆の関連を図っている。</li> <li>○ 2・6年で発展的な学習内容を取り上げている。</li> <li>○ 5・6年に北海道との関連を取り上げている資料がある。</li> <li>○ すべての学年でURL・QRコードが掲載されている。</li> </ul>	

## 令和2年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 書 写

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
取 扱 内 容  学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	日文（日本文教出版）	<小学書写> 105、205、305、405、505、605
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等		<ul style="list-style-type: none"> <li>○内容の構成・排列については、第1・2学年では、平仮名について「とめ、はらい」など点画の書き方や文字の形を確かめた後に、漢字や片仮名の点画や書き方を取り扱う工夫がなされている。第3学年以上では、毛筆について漢字の点画や穂先の向き、筆圧との関係を確かめた後に、文字の中心や2字の平仮名の筆使い、文字の組み立てや点画のつながり、用紙に合った文字の大きさや配列について取り扱うなど系統的・発展的に学習できるような工夫がされている。</li> <li>○内容の分量については、第1・2学年では硬筆が29～31ページ、総ページが40ページで、前回と同様の分量となっている。第3～6学年では毛筆が23～28ページ、硬筆が17～21ページ、総ページが52～56ページで前回より0～8%増量となっている。（判型はB5判）</li> </ul>
使 用 上 の 配 慮 等		<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決に向けたヒントを与えるキャラクターが登場したり（全学年）、本を紹介する学習（第4学年）や提案文を書く学習（第5学年）などの国語の学習との関連を図ったりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</li> <li>○学習過程を分かりやすく図解した「(書写)学習の進め方」を掲載したり（全学年）、教材ごとに自己評価のための自己評価欄を設けたり（全学年）するなど、児童が主体的に取り組むことができるような工夫がなされている。</li> <li>○巻頭に当該学年の指導事項を児童向けに示した「〇年生の目標」を掲載したり（全学年）、左利きでも視写できるレイアウトの工夫やユニバーサルデザインフォントを使用したり（全学年）するなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>
そ の 他		<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</li> <li>○3・4・5・6年で硬筆と毛筆の関連を図っている。</li> <li>○2・5・6年で発展的な学習内容を取り上げている。</li> <li>○4年で北海道との関連を取り上げている資料が掲載されている。</li> <li>○すべての学年でURL・QRコードが掲載されている。</li> </ul>